

あいち歴史さんぽ



県立高等学校などの歴史的建造物を紹介します。

愛知県立半田高等学校七中記念館



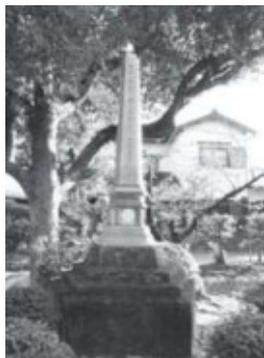
七中記念館外観(西から)

愛知県立半田高等学校は、半田市中央部の出口町、名鉄河和線住吉町駅の西350mに位置し、前身が大正8年(1919)に愛知県立第七中学校として開校した県内有数の伝統校です。

七中記念館は、武道場として大正13年(1924)に建てられ、校地の北側、校舎と運動場の境に立地しています。建物は基礎と壁が鉄筋コンクリート造、小屋組が木と丸鋼の混合トラス、屋根は半切妻造葺きとなっています。外壁は厚い鉄

筋コンクリート壁が基礎から一体的に建ち上がり、柱の一部は付柱とし、柱頭部には装飾が施されています。瀬口哲夫氏(名古屋市立大学名誉教授)によると、「大正以降の鉄筋コンクリート造武道場の濫觴(物事の始まり)」と評価されており、文化財として継承したい学校建築です。

また、半田高等学校は愛知県半田高等女学校の系譜も引いており、昭和天皇の即位を記念し建設された、五箇条の御誓文の刻まれる「誓いの御柱」が、正門脇に移築されて遺っており、今も生徒を見守っています。



五箇条の御誓文碑(北から)



半田赤レンガ建物 (旧カブトビール工場)

半田は江戸時代から醸造業が盛んな地域で、明治時代半ばにビール製造が始まりました。半田赤レンガ建物は、半田市中央部の榎下町、名鉄河和線住吉町駅の東270mに位置するビール工場の遺構です。

明治29年(1896)に丸三麦酒株式会社が設立され、明治31年(1898)に竣工した建物は、煉瓦造2階建てと塔屋部分2階を含む創建時主棟及びその南側にある平屋のハーフティンバー棟です。特に、ハーフティンバー棟は煉瓦壁と木骨の柱梁、筋交が眼に留まり、他の建物とは異なった趣をしています。この年からは本格的ドイツビールの醸造に着手し、銘柄を「カブトビール」としています。

丸三麦酒株式会社は、明治39年(1906)には日本第一麦酒株式会社に吸収合併されましたが、明治41年(1908)に加富登麦酒株式会社として再発足、明治41年(1908)、大正7年(1918)、同10年(1921)に、順次、工場を増築しています。創建時主棟の北側と西側の煉瓦造2階建ての南北棟の貯蔵庫棟がその建物です。半田赤レンガ建物は、耐震補強工事を経て平成27年から一般公開されており、国の登録有形文化財として半田の新たな名所となっています。

〈参考文献〉

愛知県の近代化遺産(平成17年、愛知県教育委員会)



ハーフティンバー棟1階内部(カフェ)



ハーフティンバー棟外観(南東から)



創建時主棟と貯蔵庫外観(北東から)



愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室

TEL: 052-954-6783

E-mail: syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp

